

平成18年度事後評価等 研究評価結果報告書

平成18年度事後評価

山形県産学官連携共同研究事業研究課題

山形県試験研究機関試験研究課題

平成19年度事前評価

山形県試験研究機関試験追加研究課題

山形県価値創造型研究開発推進事業追加課題

平成19年9月

山形県研究評価委員会

研究評価に係る基本的な考え方

県では今後の試験研究のあり方について「科学技術政策大綱」を踏まえて議論を進め、平成15年度に「山形県試験研究機関機能強化基本戦略」を、16年度に「山形県試験研究機関機能強化基本戦略Ⅱ」を決定し、さらに平成17年度には県が取り組むべき科学技術政策の基本方針とその推進方策を示した新たな「やまがた科学技術政策大綱」を策定した。

新たな大綱では、価値を創造する科学技術の基盤づくり、知的資源の戦略的な創出・活用の促進、人材の育成および人的ネットワークの形成を柱として、科学技術の振興に向けた施策を総合的に展開することとしている。その実現に向け、県の試験研究機関については、研究の芽出しと発展性や実現可能性を踏まえた研究投資の重点化、産学官・広域連携による取組みや融合分野におけるプロジェクト創出など、新しい価値や技術・産業の創出に貢献できるよう、取組みの徹底と充実を図る必要がある。

この大綱の実現に向けた展開が求められるなか、今回実施した事後評価は、平成18年度完了の研究及び業務課題について、研究成果等の報告を受け、今後の研究開発に生かしていこうとしたものである。あわせて、競争的資金への応募や国、企業等との共同研究の実施など平成19年度に新たに実施予定課題のなかで、これまで評価を実施していない課題について事前評価を行ったものである。

1 平成18年度県試験研究機関実施課題および産学官連携共同研究実施課題の事後評価

(1) 評価の視点

目標の達成度、計画・手法の妥当性、新規性・独創性、成果の発展性などの観点から評価を行う。特に、県試験研究機関の研究にあつては、部局の施策との整合性や成果の施策への反映、それらの地域力との関連などの視点を加えて評価を行う。

ア 試験研究課題

評価項目	評価の視点
目標の達成度	○成果指標に対する達成度はどうか ○目標設定は振り返って適切であったか
計画・手法の妥当性	○目標達成に向けた適正な進行管理がなされたか
新規性・独創性	○新規性、独創性ある研究遂行または成果があったか ○成果の公表がなされたか
成果の発展性	○研究成果に展開可能性があるか

イ 業務課題

評価項目	評価の視点
業務の達成度	○目標どおり達成されているか
業務の推進手法	○効率的な体制で取り組んでいたか
業務の合目的性	○目標に合致した業務目標であったか
業務の発展性	○今後、実績が生かされていく可能性はあるか

(2) 評価の実施課題と方法

山形県産学官連携共同研究事業（12課題）と県試験研究機関が実施した研究課題（22課題）の合計34課題について事後評価を実施した。

ア 山形県産学官連携共同研究事業

平成18年度の山形県産学官連携共同研究事業により、12の研究課題の取り組みが行われた。県内の大学、民間企業、試験研究機関が有する潜在的な研究開発能力を最大限に引き出し、産学官の幅広い研究連携を構築することで、確固とした科学技術基盤を地域に構成することを目的としている。

研究区分は、BとB'区分（マーケティング・フィジビリティスタディ検証型）で6課題、C区分（事前調査実施型）が6課題である。また、実施機関別では、大学等5課題、民間企業1課題、県試験研究機関6課題である。

これらの課題については、平成18年度実施要領に基づいて報告された事業実施結果報告書について書面により評価した。さらに、研究評価委員会（開催日6月13日）で成果の発表を行ったBとB'区分の6課題については、書面に加えプレゼンテーションとそれに対する質疑を加味して評価を行った。

イ 県の試験研究機関が実施した試験研究課題

平成18年度に終了した22の研究課題について、提出された研究成果報告書を書面により評価した。熟度区分はA（研究開発を実施していく段階）9課題、B（フィジビリティスタディ、マーケティング調査等を実施すべき段階）2課題、C区分（事前調査等研究会レベルから実施すべき段階）2課題、競争的資金を活用した研究課題（公募型研究課題）9課題である。熟度A、B区分および公募型研究のうち複数年度実施課題の14課題については、書面に加えプレゼンテーションとそれに対する質疑を加味して評価を行った。

なお、県試験研究機関のうち平成17年～18年度に発表課題の該当がない3機関については、2カ年の成果等に関する機関報告を実施した。

これら課題の実施機関別内訳を次の表に掲げる。

機関名	県試験研究課題数		山形県産学官共同研究課題数		機関報告
		発表課題数		発表課題数	発表課題数
文化環境部 環境科学研究センター	0		2	2	
健康福祉部 衛生研究所	0		0		
商工労働観光部 産業創造支援センター	0		0		
工業技術センター	8	3	1	1	
工業技術センター置賜試験場	0		0		
工業技術センター庄内試験場	0		0		1
農林水産部 農業総合研究センター農業環境研究部	4	4	2	1	

農業総合研究センター農業生産技術試験場	1	1	0		
農業総合研究センター農業生産技術試験場 庄内支場	1	1	0		
農業総合研究センター畜産試験場	2	1	0		
農業総合研究センター畜産試験場養豚支場	0		0		1
水産試験場	1	1	1		
内水面水産試験場	3	2	0		
森林研究研修センター	0		0		
村山総合支庁農業技術普及課産地研究室	0		0		
最上総合支庁農業技術普及課産地研究室	0		0		1
置賜総合支庁農業技術普及課産地研究室	2	1	0		
庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室	0		0		
小計	22	14	6	4	3
山形大学等			5	1	
民間企業			1	1	
計	22	14	12	6	3

ウ 県の試験研究機関が実施した業務課題

平成18年度に終了した業務課題については本年度対象となる課題はなかった。

(3) 評価結果の概要

個別課題の結果と意見は別添資料のとおりである。

① 評価結果

評価結果		県研究 課題数	産学官 連携課題数
目標を上回る達成度、成果と認められ、今後の展開が高く期待できる課題	◎	0	0
目標どおりの達成度、成果と認められ、今後の展開にあたっては若干の見直しが求められる課題	○	6	4
目標をやや下回る達成度、成果と認められ、今後の展開にあたっては見直しが求められる課題	△	16	8
目標を下回る達成度、成果と認められ、今後の展開にあたっては大幅な見直しが求められる課題。	×	0	0

② 事後評価における主な意見

- ・研究者の研究報告書の作成やプレゼンテーション能力が着実に向上してきている。
- ・研究の視点や研究内容が精査され、研究課題の質が向上してきた。また試験研究機関の成果が上がり、公募型研究課題が多く採択されるようになったと実感される。
- ・組織横断的な取り組みや、外部との連携をとった取り組みが増えている。これら連携の強みを発揮した一層の成果を期待する。
- ・地域力蓄積への展開や視野を広げた戦略性のある展開を一層意識されたい。
- ・研究計画や研究のまとめをする際には、その研究の背景、自分や地域にとっての位

- 置づけ、専門分野にとっての位置づけを明確にしてその意義を主張してもらいたい。
- ・研究者には、評価委員会やアドバイザリーボードの際に受けた指導・助言を前向きに受け止め、研究を進めていく際に役立ててほしい。
 - ・研究リーダーや研究管理者は研究者の意欲を大事にするとともに、研究評価の内容に真摯に対応し、アドバイザリーボードと常日頃から意見交換を行うなど適切な進行管理をお願いする。
 - ・事後評価のなかに研究成果の達成度の記載のない課題もみられた。自己評価し、次へのステップアップを考慮する視点で達成度は記載すべき。
 - ・企業からの受託研究はその企業のための技術開発にとどまらず、開発技術の体系化に資するよう整理して推進することに努めてほしい。
 - ・公募型研究課題のなかに応募先の記載がない課題がみられた。応募先に応じた指導助言を期待して公募先を必ず記載すべきである。
 - ・より良い研究を行うためには、研究者の配置や組織体制を考慮していく必要があり、後継者の育成にも配慮すべきである。
 - ・事後評価においては、事前評価がいかに関に研究に反映され、どのような成果を生み出したのか検証することも大切である。
 - ・単純な評価中心でなく、地域力向上に向けた指導・助言の視点で進めていくことが大切である。
 - ・研究機関および研究者の自発的な意欲を大切にしながら、研究の内容を高めていく視点が重要で、アドバイザリーボードを含め継続的に指導助言を行っていくことが大切である。

2 平成18年度優秀研究課題

(1) 選定の経過

平成18年度に実施した公募型研究事業である「山形県産学官連携共同研究事業」で実施した課題及び県試験研究機関が実施した課題について山形県研究評価委員会が事後評価を行い、特に優れていると認められた課題を優秀研究課題として選定した。

優秀研究課題については平成19年8月21日に「第6回山形県科学技術奨励賞授与式及び記念講演等」で発表した。

(2) 選定の実施方法

ア 平成18年度 山形県産学官連携共同研究事業

実施12課題について、すべてを書面により評価し、さらにこのうちBとB'区分の6課題についてはプレゼンテーションを行い、選定した。

イ 県試験研究機関が実施した課題

平成18年度に完了した研究のうち、22課題のすべてを書面により評価し、さらにこのうち熟度区分A、Bの14課題についてプレゼンテーションを行い、その中から優れた研究を選定した。

(3) 選定した課題

No	課題名	所属・職・氏名	研究の概要
1	新素材の超精密加工技術の開発	工業技術センター 超精密技術部長 田中善衛 他5名	石英ガラスや超硬合金など硬脆材料に対して高精度の溝加工、曲面加工を実現した。
2	新規食品素材「大豆圧搾ミール」を活用した機能性食品の開発	農業総合研究センター 専門研究員 鬼島直子 他3名	大豆搾油残渣を利用した加工食品や発酵食品の開発を行い、大豆飲料やヨーグルト等への利用可能性が示唆された。

3 平成19年度県試験研究機関実施予定課題の事前評価

(1) 評価の視点

試験研究課題の評価にあたっては、目的の明確性、研究進度に応じた熟度、成果波及の可能性、研究手法の妥当性に関して、課題の設定や研究計画の内容について評価を行った。

(2) 評価の実施課題と方法

対象課題は、平成19年度実施予定課題で平成19年度の競争的資金への応募等により新たに研究に取り組む課題のうち、これまでに研究評価を受けていない13課題について書面により評価を実施した。課題のうち公募研究は10課題、一般研究は3課題であった。各課題に対する意見は6月13日開催の研究評価委員会で集約した。

(3) 評価結果

個別課題の結果と意見は別添資料のとおりである。

評価結果		研究 課題数
要求どおり措置し、実施すべき課題	◎	
・研究計画を精査し、または研究を特化したうえで実施すべき課題 ・公募型研究課題にあつては、申請を妥当とする課題	○	3
次の事項に係る研究会の実施等から取組みが求められる課題 ・研究の手法、競合研究や周辺特許などの状況について調査・学習 ・市場性、マーケティング戦略、研究や産業化の実現可能性等の調査検証 ・公募型研究課題にあつては、申請内容の見直しをして進めるべき課題	△	10
提案内容について今後さらなる検討を要する課題	×	

4 平成19年度山形県価値創造型研究開発推進事業追加課題の事前評価

(1) 評価の視点

山形県価値創造型研究開発推進事業は、本県における戦略的研究プロジェクトの創出と競争的研究資金獲得を目的に、新たに実施する研究事業である。

追加応募課題の審査にあつては、平成19年度山形県価値創造型研究開発推進事業実施要領（以下、「実施要領」という。）に基づき、若手研究者スタートアップ推進枠を対象として、研究の創造性・明確性、研究の発展性、成果波及の可能性、研究手法の妥当性に関する課題の設定や研究計画の内容について評価を行った。

若手研究者スタートアップ推進枠は、将来の県試験研究機関等を担う若手研究者が、本県の地域ニーズに対応した研究シーズを発掘するための芽出し研究や基礎研究を行う機会を確保し、将来の実用化研究に向けて、ステップアップが図られるようスタートアップ研究を支援するものである。

評価項目	評価の視点
研究の創造性・明確性	○新規性、創造性があるか ○研究目的が明確になっているか ○地域ニーズの把握が適切に行われているか
研究の発展性	○本研究期間終了後の展開方向性が明確であるか
成果波及の可能性	○研究成果活用の見通しを明確に保持しているか ○将来の実用化研究に向けた取組みとなる研究であるか
研究手法の妥当性	○目的に至るための様々な手法について検討したうえで適切な研究手法が選択されているか（広い視野・異分野等）

(2) 評価の実施課題と方法

平成19年度の山形県価値創造型研究開発推進事業追加募集については、若手研究者スタートアップ推進枠13課題の応募があつた。

応募課題について、実施要領に基づき提案書の書面により評価を実施し採択課題を決定した。

【応募機関】

機関名	若手研究者スタートアップ推進枠
文化環境部 環境科学研究センター	1
健康福祉部 衛生研究所	
商工労働観光部 産業創造支援センター 工業技術センター	
工業技術センター置賜試験場	1
工業技術センター庄内試験場	1
農林水産部 農業総合研究センター農業環境研究部	1
農業総合研究センター農業生産技術試験場	1
農業総合研究センター農業生産技術試験場 庄内支場	1
農業総合研究センター畜産試験場	
農業総合研究センター畜産試験場養豚支場	
水産試験場	
内水面水産試験場	
森林研究研修センター	1
村山総合支庁農業技術普及課産地研究室	
最上総合支庁農業技術普及課産地研究室	1
置賜総合支庁農業技術普及課産地研究室	1
庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室	1
小計	10
産業技術短期大学校	3
計	13

(3) 採択結果

	若手枠
採択数	4
不採択数	9

平成18年度 県試験研究機関研究課題 事後評価（産学官連携共同研究事業）

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果	評価委員会助言・指導
1	有害物質除去を目的とした循環利用型有機無機複合材料の開発	東北東ソー化学㈱	○	酸化チタンはかなり研究されており競合が予想されるなか、本研究で既存成果が整理されたことは評価できますが、提案内容と報告内容の流れが明確でなく説明不足に思われます。既存手法との差異やコストなど優位性を明確にししながら、引き続き、研究開発を推進されたい。
2	新規食品素材「大豆圧搾ミール」を活用した機能性食品の開発	農業総合研究センター農業環境研究部	○	研究成果は出ているが、競合商品に対する優位性を明確にしてコストへの考慮も怠りなく進められたい。迅速な実用化をめざし、原料由来の特性に着目した製品づくりを期待します。
3	ラジカルイムノアッセイ法の高感度化とその応用	(財)山形県産業技術振興機構 研究開発部	○	従来法に比べて高感度な測定系の開発に一定の目処をつけたことは評価できます。測定対象を明確にしたうえで応用分野を拡げ、広く使われる工夫を期待しています。
4	最上川の清流化に関する研究（Ⅰ）	環境科学研究センター	△	シミュレーションモデルの作成とその適用性の実証への努力は評価できます。一般の人に理解しやすい清流化指標は県民活動のモチベーション維持のためには重要であり、今後の展開に期待します。なお、先行して実施されている研究との比較を行い、本研究の優位性や独自性を明確にししながら、よりよい研究成果を目指していただきたい。
5	希少淡水魚（イバラトミヨ特殊型）の保全技術の確立に関する研究	環境科学研究センター	△	調査研究の成果として、今後のイバラトミヨの有効な保護方法が明らかにされたと評価します。種の保存に関わるので、是非スピード感を持って実用化を進めていただきたい。
6	サクランボ機能性成分を特化した新規加工食品開発	工業技術センター	○	色素の安定性や生理機能成分についての研究を深め、付加価値の高い製品に利用できるよう今後も努力していただきたい。色だけでなく、種への影響についての知見も今後の研究に活かしてください。
7	ソフトシェルクラブ生産技術の開発	水産試験場	△	市場等との対話により、新たなメニューや加工品開発等の働きかけなど需用拡大をめざすとともに、生産プロセスにおける課題を整理して最適な生産手法を目指し、コストの低減を図りながら、早期の実用化に取り組んでもらいたい。
8	エダママ葉汚損症の原因解明	農業総合研究センター農業環境研究部	△	気象条件、種子の対病性等、様々な要因が考えられます。研究手法を再検討して原因解明を急がれたい。
9	キノコの天然抗酸化物質エルゴチオネインの実用化研究	山形大学農学部	△	実用化に際してはキノコの量が増えるスケールアップ時、熱水抽出法の適用にしても、種々の課題が想定される。今後の展開が期待できる研究開発であり、知財の検討なども怠りなく着実な取組みに期待します。
10	超伝導テープの高速・非破壊評価装置の開発	山形大学工学部	△	先行する知見との性能を比較しながら、着実な実用展開を期待します。
11	ベンチャー起業家育成のための教育プログラムの開発	山形大学大学院VBL	△	既存ソフトウェアへの優位性を明らかにした上で実用化されたい。学習プロセスモデルを明確に持った教育ソフトと操作システムが最適な構成となるシステムの実現を期待します。
12	大気圧マイクロプラズマジェットを用いたシリコン・ウエハの垂直ディープエッチングの研究	鶴岡工業高等専門学校	△	研究成果の整理とその特長、今後の展望を明確にして研究を進められたい。

平成18年度 県試験研究機関研究課題 事後評価（一般研究課題）

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果	評価委員会助言・指導
1	高精細加工技術の開発	工業技術センター	○	今後は、研究成果やそれに付随する高度な技術を活用して、具体的な製品の実用化に繋げていただきたい。地域への技術移転による山形県の競争優位性を確保する戦略を考えながら展開されることを期待します。
2	新素材の超精密加工技術の開発	工業技術センター	○	多くの企業に技術移転を図っていることは評価されます。研究成果による生産能力と技術の強さを、そのレベルを客観的に表現しながら、地域に定着確保する戦略を持って展開されることを期待します。
3	光ヘテロダイン計測法を用いた超精密加工支援技術の開発	工業技術センター	○	研究成果をより多くの実用装置に搭載し、精度を確認するとともに、具体的な実用化に向けて精度と使い勝手の向上を図られることを期待します。
4	放電加工用低消費・微細形状電極の開発	工業技術センター	○	得られた成果について早期の実用展開を期待します。
5	大気圧マイクロプラズマによる硬質材料の堆積加工技術の開発	工業技術センター	△	次の段階に進展可能な成果が認められますが、これからの展開にあたっては、生成物に対する定量化した評価法を持って進めることを期待したい。
6	多孔質・高強度建材に向けた低温焼結体の創成	工業技術センター	△	成果が整理されていますが、既存のものとの違いを明確にしつつ、残された課題を克服されたい。
7	精密重合法による新しい多機能性分岐ポリマーの合成と高性能塗膜としての応用	工業技術センター	△	合成したポリマーの機能を明確にし、具体的なアプリケーションを想定するといっそう説得力のあるプロジェクトとなります。
8	鋳鉄鋳造し面への溶融アルミニウム合金めっき層の加熱拡散処理による耐熱性向上	工業技術センター	○	鋳鉄の耐熱性向上に対するめっき利用の可能性を示しており、良い成果が得られています。今後は知財戦略をもって進めてもらいたい。
9	複条播種技術の開発による県産大豆の高品質化	農業総合研究センター	△	生産向上につながる技術で、コストや作業性を考慮しながら、種々の基礎的條件の最適化の検討を引き続き進め、技術の確立・移転を望みます。
10	農業使用自動認識・現場警告システムの実証試験	農業総合研究センター	△	社会的に必要な仕組みであり、トレーサビリティと連携した活用を考慮しながら、本システムの具体的な展開を期待します。
11	県産野菜の特別栽培農産物生産技術の開発	農業総合研究センター	△	新たな防除技術等の成果は出ていると思われそうですが、コスト面での評価が明確にみえません。優位性の検証、普及戦略を持って進められたい。
12	合成フェロモン利用による斑点米カメムシ防除技術の開発	農業総合研究センター	△	斑点米被害予測技術について、本県における実証データを蓄積し、環境因子等の他の要因との関連も十分検討しながら、早期に防除法を実用化されたい。
13	ハウス栽培小なすの栽培手法の確立	農業生産技術試験場	△	開発技術による収量確保、労働時間短縮の成果はみられるが、コストや市場のニーズを意識し定量的に評価したうえで、普及戦略を持ちながら技術移転を進めていただきたい。
14	DNAマーカーを用いた水稻の画期的育種選抜技術の開発	農業生産技術試験場庄内支場	△	本研究の意義は理解できます。成果の育種への実用化について克服すべき課題が少なくないと思われるので、着実な取組みに期待したい。
15	山形牛の脂肪の質を高める肥育技術の開発	畜産試験場	△	脂肪酸組成形成の遺伝因子等との関連の信頼性のある解明により、不飽和脂肪酸割合の高い肉牛を生産するためのポイントを早期に明らかにできることを望みます
16	優良肥育素牛ドナーの選定基準の確立およびSECM(電気化学顕微鏡)による高品質胚の生産	畜産試験場	△	より信頼できるデータとするためには、採卵数、移植数を増やす必要があります。SECM測定の利点を明確にして進めてください。
17	ガザミ陸上養殖技術開発	水産試験場	△	市場性を考慮した戦略を持ちながら、生産コストの低減と合わせ、安定生産技術の早期実用化を望みます
18	アユ適正増殖手法の開発	内水面水産試験場	△	モデル河川でのアユの適正な増殖手法を明らかにしたものと評価できます。他の河川での調査などで普遍性の実証検討を急ぎ、迅速な活用を期待します
19	アユ冷水病対策研究	内水面水産試験場	○	感染経路の推定を行うとともに種苗生産技術を確立しており、所期の目的は達成されています。今後実証実験を怠りなく行い、更には、より一層の本県の優位性確立のための取組みに期待します。
20	サクラマス資源再生プログラムの開発(FS)	内水面水産試験場	△	生育環境について一定の調査結果が得られており、その成果をベースにその特長を明示しながら具体的な提案を期待したい。
21	「置賜版アスパラガス産地づくり」支援技術の開発	置賜産地研究室	△	他地域の研究機関等との情報交換を十分行い、課題を整理して研究を進め、迅速に現場への技術普及に取り組んでいただきたい。
22	ウコギ新商材「ウコギ新梢」及び「ウコギ葉」生産技術の開発	置賜産地研究室	△	製品の生産目標との定量的な関連づけがほしかったと思います。今後は、生産性向上やコストの削減についても検討を進めていただきたい。

平成18年度 県試験研究機関研究課題 機関報告

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会助言・指導
			評価	申請	
1	庄内柿の有効成分を利用した食品加工研究	工業技術センター 庄内試験場			開発活動や相談活動については他の地域の公設試とも情報交換を行い相互に刺激し合い、より一層の協力を行って研究を深められたい。庄内柿の飲料への展開の市場性を考慮し、開発商品、研究を絞り込むことが効果的と思われる。
2	養豚支場における研究進捗・成果普及状況	畜産試験場養豚支場			試験の進捗や研究成果の普及等計画的かつ良好に実施されていると思います。今後特色を持った新たな目標設定も行いながら、研究開発を進めていただきたい。
3	最上地域における園芸産地拡大のための技術開発状況	最上産地研究室			園芸産地拡大に役立つ技術開発を進め、鮮度保持出荷技術の確立など成果が得られています。県内他地域の関連した研究を行っている研究機関との連携を深め情報共有等を図りながら研究を進めることでより良い成果が得られるものと思います。

平成19年度県試験研究機関 試験研究課題 事前評価結果

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			評価	申請	
1	川西産ダリアの機能性を活用したりキュールの開発	工業技術センター	○	可	ダリアの機能性成分に着目した点はおもしろく、良く計画されていますが、信頼性のある基礎データが不足していると思われる。
2	鋳鉄と焼結材料の接合	工業技術センター	△	可	鋳鉄とアルミナの複合化技術の確立に向け、着実な成果の蓄積に期待します。
3	MEMS技術を用いた半導体電極の開発	工業技術センター	○	受託	企業ニーズに応える的確な成果を還元されたい。克服すべき課題を整理して、システムティックに進められることを期待します。
4	石英ガラスの機械加工技術の実用化研究	工業技術センター	△	受託	研究テーマが実用化のニーズにマッチングした課題と思います。年々の進歩、克服すべき課題などを明確化した展開と技術知見の蓄積を期待します。
5	超精密加工・成形技術を応用したプラスチック製機能部品の開発	工業技術センター	△	受託	共同研究の内容、分担が明確であり、よく検討された計画ですが、担当部分の技術開発だけでなく、一連の技術の体系化がなされることを期待します。
6	野菜等の品目別カドミウム濃度の解明と吸収抑制技術の開発	農業総合研究センター	△	可	開発すべき技術ですが、吸収抑制手法が明確でないように思われます。耕種的方法や土木的方法等、多方面から検討し、連携機関との連絡を密にした迅速で実証的な展開を期待します。
7	植物による土壌中有機汚染物質の分解に関する研究	農業総合研究センター	△	可	発想は興味深いものがありますが、現場レベルでどの程度農業を分解できるのか明確でなく、効率性やコストの視点を含めた課題も多いと思われま。体系立てた着実な取組みに期待します。
8	黒毛和種肥育牛の肝疾病発症要因に関する研究	畜産試験場	△	可	深刻な問題で早急に開発すべき技術です。本研究の疫学的なデータの蓄積には、連携機関との広い範囲での共同、連携作業が必要で、本申請の独自性を明確にしたうえで取り組んでいただきたい。
9	ソフトシェルクラブ生産技術開発	水産試験場	△	可	市場性とコストを念頭に置きながら、早期の実用化のための課題解決に取り組んでもらいたい。
10	河川の適正利用によるサクラマス資源管理技術の開発	内水面水産試験場	△	可	生育環境の改善等他機関との連携による研究の取組みに加え、本県独自の研究手法も取り入れて研究開発を進めていただきたい。
11	広葉樹林化のための更新予測および誘導技術の開発	森林研究研修センター	○	可	県として取り組むべき研究課題と思います。研究内容が複雑で多岐にわたりますので、研究計画を綿密に立て、他研究機関と連携も十分に取って、特色のある効果的な研究を進められたい。
12	日本海側気候を活用した新しい省エネルギー型施設栽培体系の構築と導入	最上産地研究室	△	可	昨今の情勢から必要な技術開発と思われま。コストや環境影響を含めた省エネルギーの定量評価と作業者の安全性も整理したうえで進められたい。
13	ウコギ食品の開発に向けた機能性の高い原料供給条件の解明	置賜産地研究室	△	可	ポリフェノールの誘導は葉の受光程度だけでなく、種々のストレスでも向上します。原理的なメカニズムに注意しながら、コストや作業量などを考慮し、改善技術と達成目標を明確にしたうえで取り組まされたい。

平成19年度価値創造型研究開発推進事業研究課題【追加募集】 評価結果

番号	研究課題名	所属名 研究者名	採否	評価委員会助言・指導
【若手研究者スタートアップ推進枠】				
1	成形加工技術による植物由来プラスチック(ポリ乳酸)成形品の性能向上	工業技術センター 置賜試験場 研究員 後藤喜一	○	実験手法に不明確な点も見受けられたが、十分な予備データの保有があり研究目的も明確で今後の期待できる。
2	粒状セメント球状黒鉛鋳鉄を製造するための熱処理条件の確立	工業技術センター 庄内試験場 研究員 高橋裕和	○	研究の必要性、研究計画が十分に検討されている。着実な成果を期待する。
3	環境制御によるパプリカの生理障害回避技術の検討	庄内総合支庁産地研究室 専門研究員 古野伸典	○	研究計画も十分に練られている。成果指標の達成による収益改善効果についても引き続き検討されたい。
4	躯体蓄熱方式の蓄・放熱量増大に関する研究	産業技術短期大学校 建築環境システム科 宮城聡	○	研究のアイデアがユニークです。コスト・競合研究に目配りをしながら研究を進めてほしい。